



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

パレスチナ：ファイヤード首相の辞任

4月13日、パレスチナ自治政府のアッバース大統領は、ファイヤード首相の辞表を受理した。同辞表は、ファイヤード首相が4月10日に提出していた。ファイヤード首相は、ガザでハマースが実質統治を開始した2007年6月に首相に任命された。欧米諸国は、ファイヤード首相の業績を高く評価したが、パレスチナ内部では、ファタハの政治家やアッバース大統領との確執が取りざたされてきた。ファイヤード首相の辞任については、内部の政治的確執との文脈で報道されている。

他方、ファイヤード首相が辞表を提出した4月10日には、パレスチナ中央選挙管理委員会が有権者登録の終了を発表した。2月11日から20日までの間に、186万1211人が有権者登録を済ませた。有権者登録が終了した後の作業としては、評議会選挙日の確定、選挙管理内閣の組閣がある。同内閣では、アッバース大統領が首相を兼任することが合意されている。

評価

ファイヤード首相の辞任が、パレスチナ自治政府内の政治的軋轢によるものだったとしても、国民和解のための暫定内閣が成立する際には、ファイヤード首相は退く必要があった。アッバース大統領が、国民和解のための総選挙を視野に入れてファイヤード首相の辞表を受理したかどうかについては、次期首相の任命を注視する必要があるだろう。

ガザと西岸は、2006年7月から分離状態になった。ファタハとハマースは、分裂を解消するための協議を行い、2011年5月4日に、選挙を実施して有権者の判断を求めることで合意・署名した。しかし、合意の実施は遅れ、2012年2月6日、カタルのハマド首長の後押しもあり、アッバース大統領とハマースのミシュアル政治局長は選挙のための暫定内閣でアッバース大統領が首相を兼務することで合意した。両者が和解に向けて積極的な姿勢を見せはじめたのは2012年の秋に、ハマースがガザでのイスラエル軍との戦闘で「勝利」し、PAが国連総会でオブザーバー国家資格を獲得するという成果をあげた後からだ。2013年1月9日、アッバース大統領とミシュアル政治局長はカイロで11カ月ぶりに会談し、和解交渉の加速で合意している。ハマースは、4月はじめにカイロで政治局長の選挙を行い、ミシュアル政治局長を再選した。

(中島主席研究員)